

ぼうさいこくたい内閣府セッション モーハウスの取組みから



モーハウス代表
NPO子連れスタイル推進協会代表理事
東京大学大学院情報学環客員研究員

光畑 由佳

モーハウス profile

- 事業内容：アパレル（衣服）を使った**授乳環境の構築と女性支援**
- 1997年子育て経験を機に起業。「**社会的起業**」「**フェムテック**」

2009年 内閣府女性のチャレンジ賞

2009年 日本商工会議所「女性企業家大賞」優秀賞

2010年 第4回キッズデザイン賞

2010年、2016年 2度のグッドデザイン賞

2011年 全国繊維技術交流プラザ最優秀賞

2013年 経済産業省ダイバーシティ経営100選

2013年 **Women's International Network Award**

2014年,2016年 APECにてスピーチ

- 茨城県境町など地方自治体と協定、企業でも**授乳服導入**

- 取材：クローズアップ現代、ワールドビジネスサテライト、朝日新聞Be（フロントランナー）、アエラ、朝日、日経、読売、他、CNN,Financial Timesなど各国主要メディア



M
O
O
H
O
U
S
E



モーハウス紹介
子育て経験をきっかけに

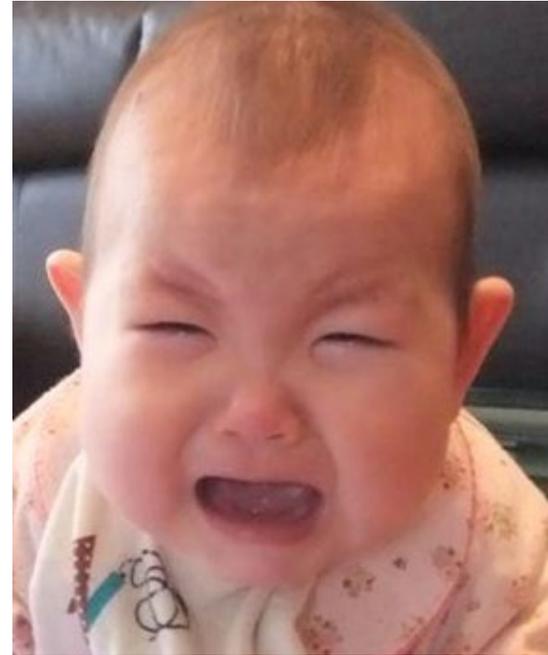
生後一か月で外出



母乳が与えられず泣き止まぬ子



子連れでの外出の難しさに気づく



モーハウス紹介 母子にとって授乳は権利、だが・・・



Photo by Shawn Inglima,

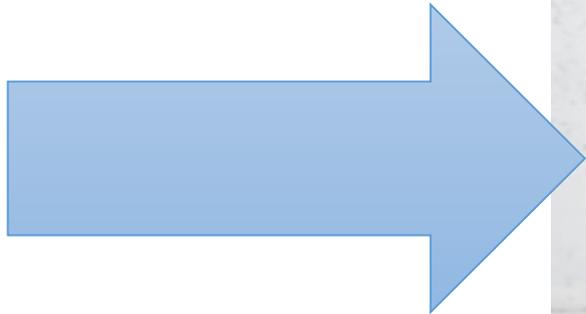
It was taken by me for the New York Daily News of the NYC Breastfeeding Leadership Council's annual Breastfeeding Subway Caravan rally in New York City on August 4, 2017.

モーハウス紹介
授乳室を着るという考え方

環境デザインとしての、
建築空間 → 衣空間



胸が
見えない



1秒で
飲める

Wearable



モーハウス紹介 授乳というツールで社会参加



六本木ミッドタウン
授乳ショー
(グッドデザイン賞防災関
連イベント)



電車で授乳動画

子連れ出勤
ララガーデン/青山ショップ/オフィス



MOM
HOUSE

モーハウスの災害支援のルーツ



- 被災地への授乳服提供
- 2005 新潟県中越地震
- 2011 東日本大震災
- 2015 ネパール地震
- 2017 西日本豪雨
- 2022 ウクライナ避難民 など



コラボ事業 モーハウスの防災活動

①啓発・情報発信

- ・母乳は防災活動
- ・分断から包括へ
- ・フェーズフリーという視点

②自治体・個人への備蓄の推進

「常識」「アンコンシャスバイアス」を壊して、
私たちが本来持っている
自助と共助の力を引き出していくことが
私たちのテーマです

M O H O U S U
M O H O U S U



① 啓発・情報発信



全日本 おっばい サミット

あなたの知らない“おっばい”の世界

“おっばい”について、何を思い浮かべますか？
エッチなオババ？ 赤ちゃんの生きる糧？ それとも癒し？
声に出さなくても伝わる、老若男女に愛される“おっばい”がいま溢れています。
昨年末以来「公共の場での授乳」の是非をめぐる、社会は大論戦。
「人前でするな」「不潔なこと言わないで！」でも見たくない！ etc.etc...
でも私たちはただ、互いの目や心に映る“おっばい”を知っているだろうか。
「公共の場での授乳」をめぐる、多様化する“おっばい観”を追いながら解決策を探る
ママ向けウェブサイト「ヘドママ」特集ページへの大反響を受け、
「全日本おっばいサミット」に各界、とりわけ“おっばい界”のスペシャリストが集いました。
「みんな“おっばい”愛”ある！」「問題の解決にはこんな方法も！」
あなたを「あなたの知らない“おっばい”の世界」へご案内します。

2017 **11/3** (金・祝)
10:15開演 (9:45開場) ~11:45
会場 **東京ウイメンズプラザ**
東京都渋谷区神宮前5-53-67 表参道駅徒歩7分
入場料 前売 **1800**円 当日 **2500**円
(0~18歳は無料)

トークショー
「あなたの知らない“おっばい”の世界」
出演者: 藤原 由香、高橋 真知子、藤田 大介、藤田 大介、藤田 大介、藤田 大介

進行役: フリーライター・編集者・YouTuber
おっばい・乳の話題に100名以上のバズを振りつけて4周年記念 寄稿家・仲田自輔
おっばいへの悩みを解決! ロングセラー「おっばい」監修 産婦人科医・村上麻里
授乳ショー (協力: 授乳服ブランド・モアハウス)

「全日本おっばいサミット」公式サイトはコチラ

主催: ウイメンズ・ネットワーク
企画: 光畑由佳、竹中麻子、ちかぞう、後藤真美
協力: NPO法人子育て支援協会、東京経済大学産科産科研究センター、産科産科研究センター、産科産科研究センター
メディア協力: ハルニエ (公営無線局)



愛・地球博、フェムテック東京、いいお産の日、日本おっばいサミット

①啓発・情報発信 母乳育児は防災活動

WHOによる母乳育児の推進は途上国中心？ 先進国は関係ない？

➡被災地 ≡ 途上国



© UNICEF/UN0789101/Piojo

「普段の生活ばかりでなく、災害時こそ母乳育児（日本ユニセフ協会の声明（2011年））今回のような災害において、母乳育児を継続したくてもストレスやショックで一時的に母乳の出がよくなることがあります。また、お母さんに十分な食べ物や水が行き渡らなかつたり、授乳にプライバシーの確保が難しかったりという課題もあります。しかし、普段より頻繁に乳房を吸わせ続ければ、多くの場合回復します。また、お母さんと赤ちゃんに十分な支援と配慮があれば、母乳育児を続けることができるのです。

母乳には赤ちゃんが必要としている栄養と免疫が含まれているので、下痢や呼吸器感染症といった病気から赤ちゃんを守ります。また母子の肌が触れ合うことによる「心のケア」にもなります。赤ちゃんが欲しがる時にどんどん乳房を吸わせてください。おしっこウンチの量で母乳を十分に飲めていることが確認できれば、粉ミルクを足す必要はありません。」

①啓発・情報発信 分断から包括へ

赤ちゃん連れの場合は、避難所への避難も、
ためらうケースが多い。

➡車上避難などの増加による健康リスク

0歳～1歳までの子どもを持つ母親、
250人が対象の「避難場所の意識調査」

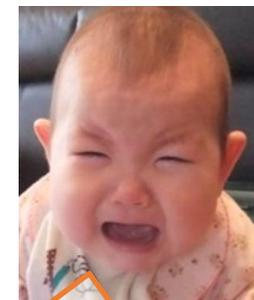
※コンビニ(株)避難場所の意識調査アンケートより



写真:熊本新聞

「避難指示が発令された場合すぐに赤ちゃんを避難所に行くか」
→ **52%**の人が、「すぐに避難所に行かない」と回答

「赤ちゃんを過ごすことに対して不安があるか」
→ **80%**の人が「不安」



避難所で
子どもが泣いたら？
という不安

①啓発・情報発信 分断から包括へ



最近では、小さい子ども連れ世帯専用の避難所を設けたり、災害時に、簡易的な授乳場所を設ける動きも出てきている。

ただ、このような場所は、すぐにはできない。

そして子連れ専用の避難所を作ったり、居室の外に授乳スペースを設けたりするのは、一時避難的な措置としてはある程度機能するのですが、大規模災害が起きて避難生活が長期化するような場合には、本当にそういう形で良いのか、議論の余地がある。

分断ではなく包括
多様性を受け入れられる避難所
= 社会を作るべきでは



①啓発・情報発信
分断から包括へ

大臣から離れなかった子ども
=子どもが社会に受け入れられる
ナッジになっている

少子化対策担当大臣
子連れ出勤視察時



ナッジ=人の心理や思考
にあわせ、難しいことや
難問をそっと良い方に示
唆すること(行動経済学)

ダイバーシティ&インクルージョン

①啓発・情報発信
分断から包括へ

普段から孤立しないために
避難生活が長引く災害も見据えて**普段から、**

情報収集と**人とのつながり**の中で**子育てできる環境**をどれだけ確保しておくこ

とができるか、避難をする場合の初動の行動にもつながるので、子育て世帯の防災には、**欠かせない視点**

普段からの
情報収集

+

様々な人との
繋がり

=

災害時の
避難に強い

①啓発・情報発信
フェーズフリーという視点

**災害時は
「いつもと違う行動はできない」**

防災が特別なことではなく
日常が防災になる**文化が大切**

フェーズフリー＝備えない防災

①啓発・情報発信
フェーズフリーという視点

社会の中で育てる = フェーズフリー



六本木ミッドタウン授乳ショー



電車で授乳動画

② 母乳継続のための備蓄の推進

M H
O H
O S U A

普段も

非常時も

安心できるように

いつもの備え

ゆったりとしたシルエットは3Lサイズまでカバーし、幅広い体型の方が着用可能です。災害時でも快適に着ていただけるように機能やデザインにこだわり、洗っても乾きやすい素材。被災経験のあるママと専門家の意見を反映させたモーハウスこだわりのオリジナル災害用Tシャツです。



備蓄しやすい防災Tシャツの開発 (吸水速乾授乳Tシャツ)



災害時の避難先で過ごす際、ママと赤ちゃんにとって大事なものは、普段通りに過ごせる環境づくりです。災害用授乳服の使用により、授乳スペースがなくても、人目を気にせず母乳を飲ませることができれば、赤ちゃんの安心にもつながります。授乳しやすいデザインとフリーサイズであることに加え、速乾性、難燃性も備えた授乳服であるとのこと、機能的で快適、安全な衣服の使用により、避難先での母子のストレスが少しでも減ることを願います。

文化学園大学服装学部 教授 佐藤真理子

先日の台風で避難した時、授乳服があってとても助かりました。避難所には授乳室がありましたが、4カ月の息子はまだまだ授乳回数も多く夜中も頻繁に起きるため、その場でサッと授乳できたのが良かったです。まわりの方にも変に気をつかうこともなかったです。（おそらく周りからは授乳していると気づかれてはいなかったと思います）

神奈川県 かな様

②母乳継続のための備蓄の推進 自治体との協定・協働

- ・「誰一人取り残さない」ために、
出産前に市長や社長から、**産後ケアとしての授乳服**
- ・社会とつながる子育てのための環境づくりで、
産後の困難さを解決し、産み育てやすい地域社会を創造
- ・**母子のための備蓄**（母乳は防災活動&公衆衛生の重点策）

→約20の自治体と、協定や協働

Sustainability

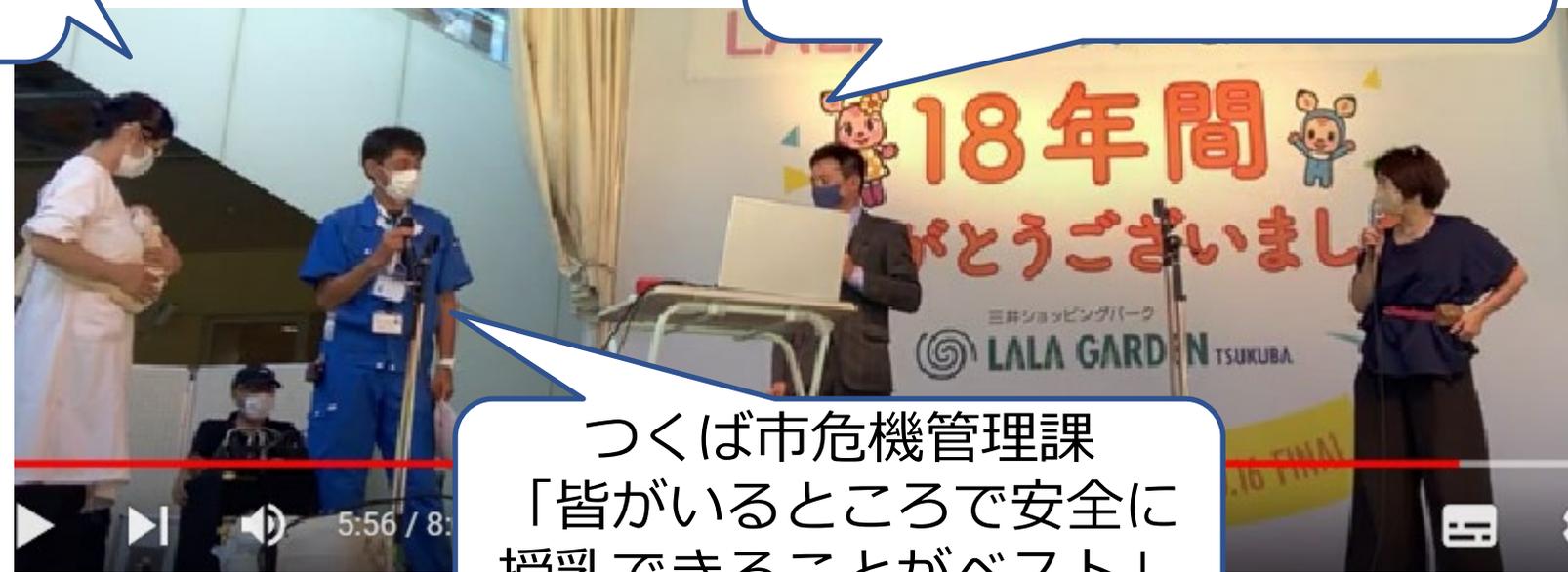
持続可能な
子育て



②母乳継続のための備蓄の推進
つくば市が授乳服を備蓄する理由

授乳をするために
授乳室が必要とい
う声があるが・・・

県会議員
「性被害を防ぐには、女性を
一人にしてはいけない」



つくば市危機管理課
「皆がいるところで安全に
授乳できることがベスト」

<https://www.youtube.com/watch?v=4mn0sUsNUSk>

②母乳継続のための備蓄の推進 【参考】栄養による備蓄量の違い

栄養方法別の1週間の支援物資
Gribble KD et al. Int Breastfeed. J.6(1):16,2011



液体人工乳を使って、
人工乳で育っている子のための災害時必要物品



粉ミルクを使って、
人工乳で育っている子のための災害時必要物品



母乳で育っている子のための
災害時必要物品

普段の母乳育児や
災害時に母乳育児が継
続できる環境が大切

コラボ事業
啓発・情報発信イベント



11月12日母乳と防災イベント

【温故知産】関東大震災から100年、母乳育児をきっかけに災害対策を見直そう！
東京都主催ウィメンズプラザフォーラム（入場無料・要申し込み）

「子なれた」社会を目指して



特定非営利活動法人

子連れスタイル推進協会



「子なれた社会」を目指して、社会に「子連れ」をミックスする ～ママも、子どもも、大人も、みんな“心地いい”社会へ～

子連れスタイル推進協会は、

子育てと社会が共存する「子連れスタイル」を提案するNPO（非営利）団体です。

「子連れスタイル」が、母だけでなく、男性を女性を、家族を、地域を、社会を変える第一歩だと考え、活動しています。